

MINDAN



脱北者支援 Report

編集・発行 = 脱北者支援民団センター TEL:03-3454-5811(FAX兼) e-mail : sien@mindan.org



住居や就業の斡旋など脱北者が日本に定着するための支援を続けてきた(右は心のケアの調査結果を報告する李医師)

「難民として認めて」安定した生活を呼びかけ

脱北者支援民団センターが開設1周年集会を開く

北韓を脱出して命からがら日本に渡ってきた元在日同胞への人道的支援を続けている脱北者支援民団センターは去る7月1日、東京・南麻布の韓国中央会館で設立1周年を記念する集会を開催しました。集会には関係者150人余りが参加しました。

冒頭、センターの呂健二代表(民団中央本部副団長)は「元在日同胞脱北者が日本で安定した生活を営めるよう一人でも多くの力を貸してほしい」とあらためて呼びかけました。

脱北者のひとり、金光一さん(仮名)は集会で「いちばん辛いことは、いまだに自分の立場を明らかにできないことだ。就職に際しても履歴書をごまかすしかなかった」と苦しい胸の内を語りました。孫麻里さん(仮名)も「身分証明書の代わりとなる外国人登録証をつくるのに7カ月もかかり、その間は銀行口座も開設できなかった」と明かしました。

センターでは脱北者が日本で1日も早く自立した生活を送れるよう住居の確保と就職先の斡旋、

および日本語の習得などの便宜を図ってきました。しかし、北送責任の一端を担い、かねがね人道支援を約束してきた日本政府の取り組みは遅々として進んでいないのが現状です。

センターでは集会の最後にアピールを発表、日本政府が脱北者を難民として認定し、当面の生活安定のために必要なあらゆる処置をとるよう訴えました。

癒えぬ心の傷

在日同胞・李創鎬医師が面談調査報告

日本在住の脱北者は一部の例外を除いて多くがいまも癒えない精神的な外傷を抱えていることが在日同胞の李創鎬医師による個別面談の結果、明らかになりました。李医師がセンターの1周年記念集会で中間報告



心のケアの調査結果を報告する李医師

しました。

要因としては中国での潜伏生活の長期化、脱北過程での逮捕と拘留、尋問などが複雑に絡み合っています。日本入国後も満足のいく就職先も見つからず、家族を北韓に残したことによる自責の念にも苦しんでいる。

ある60代の女性は、北韓に残した家族が自身の脱北によって拘留され、暴力を伴う尋問を受けたこ

とを知った。それ以来やりきれない思いに悩み、不眠が続いている。また、30代の女性は中国での潜伏生活中、いつ逮捕されるかもしれないという極度の緊張状態によるストレスがいまも尾を引いているという。

脱北者はこれからもさらに増えていくことが予想されるだけに、李医師は「さらなる支援態勢の拡大、ネットワーク化が望まれる」と締めくくった。

在日の脱北者を激励—仲間との再会に涙も

支援センターが関東、関西で三回目の交流会を開く

【大阪】飢餓状況など極限の生活状態に置かれたために北韓を脱出し、中国などを経由して日本に戻った元在日同胞を励ます交流会が29日、大阪の健康ランドで開かれました。

日本での定着に努力する中で、ゆっくりと過ごす時間もなかなかとれないとあって、久しぶりの再会を喜び、カラオケや民謡、踊り、ピンゴゲームなどで楽しみました。「こんな機会は支援センターがづくってくれなければできない」と支援センターの活動に感謝を寄せていました。

一方、関西地区に先立つ22日には、都内の健康ランドで関東地区の交流会が開かれました。3度目の開催となる関東交流会には脱北者や支援市民団体メンバーらあわせて40余人が参加しました。また、自民党の平沢勝栄衆議院議員も駆けつけ、脱北者を激励しました。呂代表も、脱北者に声をかけながら生活状況などに気を配っていました。関東北部の県に一人で居住している脱北者は、なれない電車の乗り継ぎで道に迷いながらも2時間半をか

けて会場に到着。初の交流会参加に「こんなに多くの仲間が…」と驚きながらも目頭を熱くしていました。

支援センターでは、ほとんど着の身着のまま日本に到着した脱北者に対して「もとは同じ在日同胞」との立場と人道的な観点から、当面の生活資金や住居、就職をはじめ日本に定着するための支援を行っています。



関西交流会でゲームを楽しむ脱北者たち



さまざまな趣向で楽しい一日を過ごした関東交流会

人道主義としての脱北者支援を

民団はこれまで機会あるごとに朝鮮総連に対し対話を呼びかけてきましたが、朝鮮総連中央本部の徐万述議長は、韓国のハンギョレ新聞(7月21日付け)のインタビューを通じて、民団中央と対話できない理由の一つとして「脱北者を支援しているのは共和国に対する敵対行為である」と述べました。また、民団中央の金宰淑団長が光復節記念辞を通じて、両団体が和合することを呼びかけたことに対する総連の公開書簡などでも、脱北者支援民団センター事業の中止を求めています。これらの事実からも明らかなように、総連中央は「脱北は共和国に敵対する行為である」と決めつけています。

当支援センターは様々な事情から第三国を通じたのち、日本政府が正規に認定して入国した元在

日同胞や日本人妻とその子弟らが日本へ一日も早く定着できるように手助けをしています。

しかしNGOなどによると、日本へ入国した脱北者の生活状況は困難を極めているという。不法入国者として公安に追われながら中国で潜伏生活を余儀なくされ、やっと韓日のNGOなどに保護されて日本にきたものの、バッグ一つの所持品と、数百円程度の所持金があるだけ。その日の食事にさえ困り、泊まる場所もないのが現状で、ましてその後の生活を考える余力などあるはずもないという。極端に言えば、心ある日本のNGOや支援団体がなければ、日本についたその日から生きることさえ困難な状況に置かれるという。

このような人たちを支援したからといって、総連中央がなぜ「共和国に敵対する行為だ」として非難するのかまったく理解に苦しむばかりだ。まして日本に入国したこれらの人たちは、元々日本に

居住していた在日同胞とその子供たちである。暖かい支援の手を差し伸べることはあっても、鞭打つことがあってはならない。

支援センターはこの間、日本にたどり着いた人たちに、「定着支援」の名目で、当面の生活に役立ててもらおうと支援金を送ってきた。また、民団役員や日本人士など幅広い分野に呼びかけて無料や格安で住むことができる住宅を提供してきた。さらに日本で自立して生活していけるような「職」についても、できる範囲内ながらも紹介してきた。孤立しがちな脱北者たちの交流会なども随時開催し彼らを激励してきた。

当センターの脱北者支援活動は、多くの在日同胞(総連系を含む)や日本人の方々から寄せられた募金でまかなわれている。これからも引き続き、より多くの方々へ脱北者の現状を訴えながら皆様のご協力をお願いする次第です。

脱北者からの手紙・ 監獄生活 金永美さん No.3

〈四畳半に15人収容〉

私たちを乗せたトラックは朝鮮最北部の地オンソンに着きました。トラックから降ろされてすぐに厳しい荷物検査を受けました。特に女性の場合は保衛部員が髪の前からつま先まで丹念に検査をしました。脱北したことが罪とはいえ全裸で検査されたことがとても嫌でした。検査後に案内された四畳半位の小さな部屋には女性14～15人が収容されました。食事は小麦粉にトウモロコシのかすと皮を煮てのり状になった物を一日三食。でも、噂よりは仕打ちは酷いものではなく、殴られるようなことはありませんでした。一日中座ったまま話も出来ず、トイレに行く時や水を飲む時は手を挙げて看守に許可を得てから行きました。このまま出れなかったらどうしよう?と毎晩不安で眠れませんでした。そんな中、収容15日目にして終了の日が来ました。

〈地元の保衛部でも取り調べ〉

ある朝、看守が私の名を呼び「早く出て来い!」と大声で叫びました。一瞬嬉しかったのですが、また新たに地元での仕打ちが待っているのが不安でした。ともかく、地元の保衛部の指導員に連れられ地元C市で一カ月間取調べを受けることになり、そこではさらに辛い思いをしました。それは肉体的ではなく精神的に苦痛を与えられたのでした。鉄格子のある薄暗い監房の中にたったひとり閉じ込められ、ただ一日中座っているだけで少しも動くことは許されませんでした。話も出来ずただ座っているというの

はとても辛いことでした。

〈鞭のない拷問〉

もっと辛かったのは夜眠れないことでした。夜は10時になると寝かせてもらえるものの薄暗く湿気の多いその監房には蚤が沢山いたため、結局一晩中眠ることが出来ませんでした。昼間鞭のない拷問を受けながら唯一の安らぎの睡眠さえも許されなかったのです。その時、朝鮮に来なければこんなことにならなかったんじゃないかという考えで頭の中がいっぱいになり、最後は気がふれたように壁に頭を2～3度ぶつかりました。とにかく早く解放されたい気持ちで精神的にも、肉体的にも衰弱してきました。日頃運動も出来ず、薄暗いところで一日中座っているため顔や足がむくんでくるのが分かりました。34日が過ぎたある日、突如釈放され無事社会に出ることが出来ました。その後、6カ月が過ぎましたが、やはりどうしてもそこで暮らすことが出来ず、またもや中朝国境の川を渡りました。そしてまた中国での潜伏生活が始まりました。いつまた捕まって送還されるかも知れない不安を抱いたまま歯を食いしばり何とか生き抜こうと心に誓いました。 <おわり>

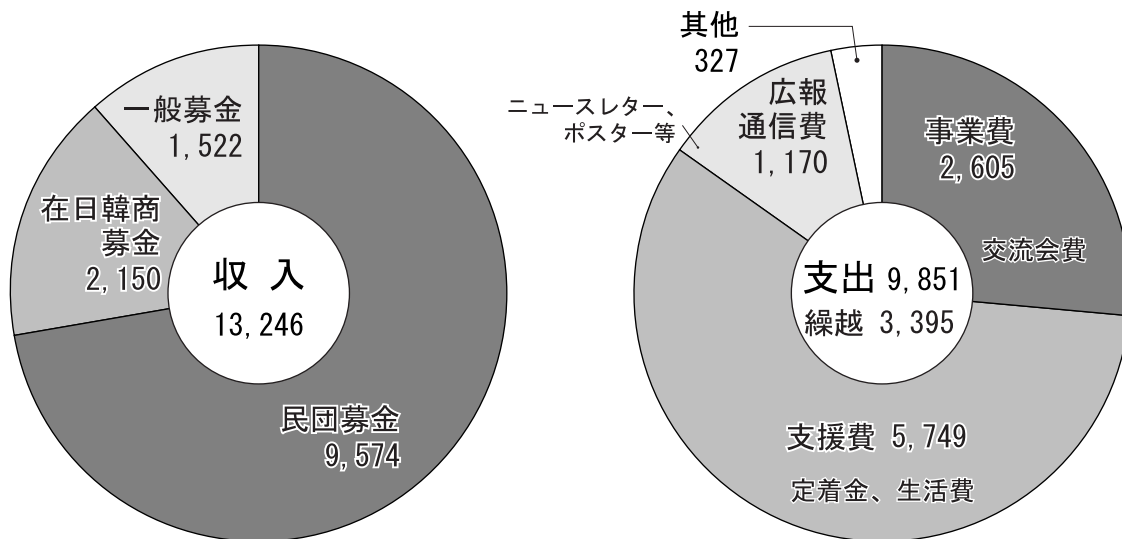
この手紙の内容は金永美〔仮名〕さんから頂いた内容を要約しています。

<金永美さんのプロフィール>

在日同胞・東京都出身・40歳代・女性・70年代に渡北・03年に帰国・現在関東在住

脱北者支援センターへの協力に感謝いたします。

支援センターは皆様のご誠意を脱北者の支援のために下記のように使わせていただいております。皆様からの募金も残額が少なくなってまいりました。今後とも、より一層のご支援をお願いいたします。



2004年9月22日現在 (単位：千円)

在日韓商はジュースの売上の一部を募金しています

天然ザクロエキス 「ポムグラネーテ」

在日韓国商工会議所では、北韓(北朝鮮)を脱出して日本に渡ってきた元在日同胞が日本の地で安定した生活を送ることが出来るようにと、経済的支援を目的に「天然ザクロエキス」の販売を展開することになりました。そして、この活動による売上金の一部を元在日脱北者の支援金に充てさせていただきます。趣旨をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。



1ケース (12本入り) 販売 (1本375ml) 36,000円のところ

24,000円 (税・送料込) で販売

発売元
(株)マロニエスタッフ

【ザクロエキスの効能】

老化防止、皮膚老化防止、生理痛・生理不順、不感症、脱毛症、記憶力減退防止、性欲低下、骨粗鬆症、視力減退、尿失禁、憂鬱症、更年期障害、体内脂肪減少効果など。

【ザクロエキスの飲み方】

ザクロエキス 1 に対して 4 ~ 5 倍の水で薄めて飲用します。
焼酎やビールに混ぜて飲用すると二日酔いの緩和になります。

ご注文方法

在日韓国商工会議所にて注文を承ります。代引でのお届けとなりますので、配達時に代金をお支払い下さい。在日韓国商工会議所 03(3456)1190

「ポムグラネーテ」の主成分

原 料: 100%天然濃縮ザクロ果汁(濃縮5:1)
栄養分: 40カロリー、脂肪 0g、炭水化物 10g、糖分 6g、蛋白質 0g、ビタミンA 1g、
ビタミンC 0g、カルシウム 1%、鉄分 1% 保存料: なし 原産国: アメリカ

女性をより美しく